

## 命に立脚した医療と経済

国立大学法人 琉球大学  
第16代学長 大城 肇



この4月1日付けで第16代学長に就任しました大城です。よろしくお願ひいたします。琉球大学医学科同窓会は、本学の数ある同窓会の中で最も活発な活動をしている会の一つではない

かと、たいへん心強く思っているところです。

私は経済学出身ですので、いうまでもなく医学に関する知識はゼロに等しいです。しかし、地球と人体の熱交換システムの類縁性ほどではないにしろ、医学と経済学の類縁性は、いくつかの例に見ることができます。

かなり以前に、先輩の内科医と居酒屋談義に花を咲かせている中で、「お医者さんの仕事はたいへんですね。一人の患者の命が懸かっているのだから。」と話したところ、「経済学者の方がたいへんだと思うよ。なぜなら、経済がうまくいかなかったら、多くの国民が不幸になるから。」と。とはいえ、命を預ける医療従事者に対する絶対的信頼には大きなものがあります。

経済も命を支えるものを調達し、人々の暮らしを支えています。そのようなことから、経済活動に関する用語として生命活動との類縁性から医学用語が多用されています。ただし、医学界で死語になっている言葉があるかもしれません。一例を挙げます。

まず、経済は生き物であり、おカネは経済の血液であるといえます。経済がうまく行かず、動脈硬化や梗塞を起こしてしまうと、インフレや逆にデフレが起こってしまい、経済が過熱したり冷え込んだりして体調不良を起こします。すると、政

策当局は市場に新たに輸血（金融緩和）したり、カンフル剤を注入（財政出動）して、新陳代謝（経済循環）を良くし、病気（不景気）から健康（好景気）へ好転させる治療（政策）を行います。

そのほか、情報の非対称性の事例として、医療従事者と患者の例がよく用いられます。さらに、2012年のノーベル経済学賞を受賞したアルビン・ロスとロイド・シャプリーのマッチング理論は、医師の臨床研修制度における研修医と病院のマッチングや臓器提供者と患者のマッチングなどに解決法を与えてくれます。

話は変わります。国立大学は法人化して9年目に入りますが、折しも、2011年夏に文科省から大学改革実行プランが示され、思い切った改革を行うことを強く迫られています。今こそ、大学関係者が叡智を出し合い、より良い大学経営に対する処方箋を用意し、県民に愛され、地域から頼られる大学づくりに邁進しなければならない重要な時期にあります。

法人化後の大学運営は年々厳しさを増しており、日々変革を行わざるをえませんが、県民から信頼され地域に貢献する大学という創立時からの理念は不変です。学内外の力とエネルギーを結集して、沖縄の振興発展と医療人材をはじめとする人材育成、そして国際貢献に尽力いたす所存です。そのために、同窓会の皆様方の変わらぬご指導・ご支援を賜りますよう、心からお願ひいたします。

おわりに、医学部同窓会の会員各位のますますのご健勝とご活躍並びに貴会のさらなるご発展を心より祈念してやみません。